

I S S N 0289-9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

特集

知って得する文献資料案内
これを読めば参考になる！



『鳥』 ベンネーム A・Hさん画 (文学部)

国文学演習で、このところ『伊勢物語』を取り上げているが、学生諸君の発表を聞いていて気になることがある。それは、多くの参考文献を調査して、様々な学説や考察を紹介してくれるのだが、はたして、発表者自身の考え方はどうなのだろうか、そこに発表者の批判はあるのだろうか、などと思う事が多いのである。聞くほうは、せっかく詳細に調べて報告をしてくれているのだからと、その労力に脱帽しつつ、しかし、君自身はどう考えるのだ！と、思わず叫びたい衝動にかられることがあるのだ。

僕は、文学というものがどういふものであるか、などといったことを考えるのは苦手なのだが、しかし、僕にとっての文学というものの関わりは、作品をいかに正しく読むかということ以外にはない。そして、

文献資料案内

知って得する 参考になる！

これを読めば

読めば得する資料はないか？といえ、書店や新聞などで見かけるベストセラーなどを一応参考にするをおすすめする。人気のあるものは何か光るところを持つ可能性が高いからだ。しかしこれで終わってはちょっと申し訳が立たない。そこで書物を含めて「情報の取得」という切り口から、専攻分野に関わらず学生諸君の参考になりそうなことを述べてみよう。

情報は自分なりに体験して得るべきものである、と私は思う。とはいっても、世の中の不思議にすべて一から当たるわけにはいかないものだ。だから人さまの経験をまねしてみたり、蓄積されてきた知識を利用してしまおう、これは自然の成り行きである。そこで、人の経験や知識といった情報

その正しい読みとは、繰り返し何度も作品に向かうことでなければ得られないとも思っている。三年次以降に行われる演習では、学生自身がその実践を試みてほしいと思っているわけで、正直なところ、その人自身のあり方というもので、読みの深淺は変わるものではあるけれど、僕は、それはそれでいいのだとも思っている。要は、その人と作品との対話ということであって、正しい作品理解は、時空を超えて、真の他者の理解へとつながっていくものでもあろう。

正しい作品理解法

●●● 河地 修

従って、僕の立場は、この企画のねらいには反するものであるかもしれないが、参考資料などどうでもいいという立場なのだ。二度三度とその作品を繰り返し精読すること、その作業を通じて、何かこちら側に響いてくるものを手がかりとして（それはむろんことばである）作品の正しい理解に務めなければならぬのだ。

しかし、そうは言っても、その作品の言葉や描かれている環境が今日とは大きくか

をうまく利用するための心がけが、以下の三つである。その一：レファレンス資料を手元に置きなさい。なかでも辞典・事典と地図である。これは先人の営み、自然の営みの成果が凝縮された資料だ。日本語や英語の辞典、あるいは専攻分野の事典などがいつでも参照できる状態にしてあるだろうか？地図にはいろいろの縮尺のものがある。あえて挙げるとすると、発行地域は限られているが、「二万分の一地形図 国土

情報の取得のための心がけ

●●● 尾崎晴男

地理院」は等高線までちゃんと記してあって、まちを知るためには役立つぞ。

その二：書店と図書館を愛しなさい。そしてなおかつ浮気をしなさい、と言ってほしい。書店や図書館にもいろいろと得意とする分野がある。だから自分の希望に応じてうまくつき合えるようになりなさい。このためにはまず、あれこれマメにアタックする必要がある。そのきっかけとして、『東京ブックマップ』（書籍情報社）は強力

け離れている古典の作品では、さまざまに困難な状況も立ち現れるだろう。その距離を埋めるものが信頼できる注釈書というものなのである。しかし、その注釈書といっても、あくまでも、自分自身がその作品との直接対話を試みるための補助的機能を果たすものに過ぎないということは、ぜひとも忘れてはならないことであらう。

そのうえで、『伊勢物語』の注釈書として、今日最も学術的に高い水準にある一書を紹介して、この稿の責めをふさごう。それは、本学名誉教授でもある石田穰二博士の『新版 伊勢物語』（角川日本古典文庫）である。本書は、学習院大学蔵本である三条西実隆書写のもの（藤原定家の書写したものを忠実に写したものを本文として使用し、必要最小限の語釈が脚注として掲げられている。さらに注目すべきは、補注というかたちで、脚注では触れ得ないものや、この物語が有する様々な問題点が考察されている点であろう。僕などは、この注釈書を精読することで、石田博士と『伊勢物語』との高度にして見事な会話をかいまみる思いがして、別の意味で興味が尽きないのだ。

（かわちおさむ・文学部助教）

な助っ人となるはずである。

その三：頼れる人を見つけない。先生、友人、役所や会社の人、それぞれの道の専門家にもいろいろある。聞かれる立場は迷惑ではないか？そりゃそうだ。しかし、若い君たちだっけいずれば利用される立場に立つ機会の方が多くなるのだから、今のうちが大いに利用させてもらえばよろしい。ただし礼儀をわきまえ、忙しそうなきは遠慮してあげなさい。実のところ、最大の情報源のひとつは信頼に足る人だと思ふ。そんな人を見つければ、うまくコミュニケーションする能力も、若いうちに身につけるべき技術のひとつなのだ。

最後に電子機器も利用しなさい、と付け加えておこう。今までに挙げた中でも、かなりのものがコンピュータで効率的にアクセスできるようになっている。インターネットもあるぞ。ホットなテーマに関しても、きっと希望に答えてくれるはずである。

失敗するのも今なら許せる。学生のうちに情報の荒波を漂う体験を積んでおくと良い。みなさんの研鑽を期待している。

（おさきはるお・工学部講師）

『西鶴諸国ばなし』は、貞享二年（一六八五）正月に刊行された井原西鶴作の浮世草子。五巻五冊から成る。

まず、本学図書館所蔵本の簡単な書誌を述べる。

書型 大本五巻五冊。袋綴。

表紙 雲形巻竜紋淡鼠色（巻竜紋雲型模様朽葉色とも言う）。二六・六センチメートル×一七・二センチメートル。五冊共原表紙。

中央双辺、二・六センチメートル
一センチメートル
ル×四・五センチメートル

題簽 中央双辺、二・六センチメートル

「絵入／西鶴諸国はなし 一（一）五」。五冊共原題簽。

本文 四周単辺、一九・三センチメートル×一四・四センチメートル。半丁序文九行、本文一〇行。

構成 卷一、二二丁半（序文二丁、目録一丁、本文一九丁半）。

卷二、二〇丁半（目録一丁、本文

一九丁半）。

卷三、二〇丁半（目録二丁、本文一九丁半）。

一九丁半）。

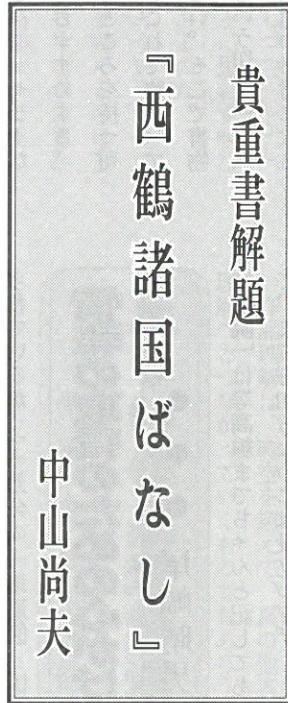
卷四、一六丁半（目録二丁、本文一五丁半）。

一五丁半）。

卷五、一六丁半（目録二丁、本文一五丁半、奥付半丁）。

一五丁半、奥付半丁）。

目録題 「近年諸国咄／大下馬 卷一（一）



四）、「近年諸国咄／大下馬 卷五」。

柱刻 「大（一）五」 丁数「八但し、

卷三の一四・一七丁と巻四の一四・一五・

一六丁とは「大 三（四）丁数」。

版下 西鶴自筆。

挿絵画者 西鶴自画。

刊記 貞享二年丑正月吉日／大坂伏見呉

服町真斎橋筋角／池田屋三良右衛

門開板。

なお、本作には、本学所蔵本以外に、同じ板元から出版された毘沙門格子巻竜紋表紙本（大本、五巻五冊）と薄茶色表紙本（大本、五巻五冊）とが現存するが、摺り・紙質・装幀などから見て、本学所蔵本が初版初摺本かそれに限りなく近い本であろうと推定できる。大正九年に水谷不倒が、序文に「難波西鶴」の署名がある本がありこれが初版本であろう、と述べた（『西鶴本』）が、今日に至るまでその伝存は確認できていない。

さて、右の書誌から分かるとおり、本書は外題は「西鶴諸国はなし」、目録題に「近年諸国咄／大下馬」と、三つの題を有している。西鶴作品中には三つも題を持つ作品は本書以外にはない。ただ、各巻柱刻に「大」字があることから、「大下馬」が当初予定した書名であったと推測される。にもかかわらず、何故外題を「西鶴諸国はなし」としたのであるうか、ということについては、山口剛氏の見方（日本名著全集『西鶴集』下解説／昭和四年）が妥当であろうと考えられる。即ち、当初外題を

「大下馬」として出版する予定で準備を進め、柱刻もそのつもりで刻して摺りあがった後に、京都の西村市郎右衛門が『宗祇諸

国物語』（五巻五冊、貞享二年正月刊）を出版することが分かり、それに対抗するた

めには「大下馬」では具体性に乏しいので、前年六月の一昼夜二万三千五百句独吟でそ

の名を高めている「西鶴」を冠した書名を急遽外題とした、というものである。西村

市郎右衛門は、京都の書肆であるが、同時に浮世草子の作者でもあった。都の錦の

『元禄太平記』（元禄十五年刊）で、大坂の西鶴に対抗する作者として京都の西村を挙

げていることは、周知のとおりで、西鶴にしても版元池田屋にしても、その西村が

『宗祇諸国物語』と題した作品を刊行することに對して、相当の神経を使ったであらうことは推測に難くない。

本作の内容は、序文に「世間の広き事国々を見めぐりてはなしの種をもとめぬ」とあるように、諸国の珍談・奇譚を扱った諸国

咄的短編集で、西鶴の創作方法の特色のひとつである「はなし」の原点とも言える。

また「人はばげもの世にない物はなし」と

も言うように、いつも人間に興味を持ち、

世の人心すなわちその時代の人間そのものを描くことを目的とした彼の、人間への深い洞察力のうかがえる作品である。殊に、

巻四第二章の「忍び扇の長歌」での主人公の武家娘の言は、西鶴の人間観をもっともよく表している。

天和二年（一六八二）十月に『好色一代男』を出した西鶴は、貞享元年（一六八四）

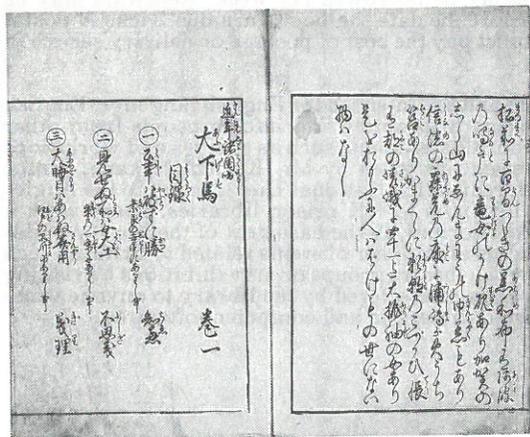
六月五日に大坂住吉社前において一昼夜二万三千五百句の独吟興行をやったのけた。

これは、彼の俳諧界への痛烈な決別宣言であり、この時以降、散文作者として本格的

活動に入ったと言える。その第一作が本作であり、右に示した方法的・内容的特徴と併せて、記念すべき、そして代表的作品と

いうことができよう。

（文学部助教授・なかやまひさお）





外国の図書館シリーズ

— その15 —

There are 185 British Council libraries and resource centres around the world. They are divided into 11 geographical regions namely:

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| (1) the Americas | (7) Central Africa |
| (2) South Asia | (8) West Africa |
| (3) East Asia and the Pacific | (9) the European Union |
| (4) the Middle East and North Africa | (10) Central Europe |
| (5) East Africa | (11) Eastern and Southern Europe |
| (6) Southern Africa | |

Not only do they provide traditional lending library services but an increasingly wide range of other information services as well. Information, seminars, workshops, lectures and more besides are available in a variety of spheres such as the arts and literature; English language, education and teacher training; science and technology, including engineering, agriculture, medicine and health; development topics, including good government and gender issues. Video and audio materials are also available on loan. In addition, many libraries now have CD-ROM databases, interactive CD and access to UK and European on-line and electronic databases.

Here in Japan there are British Council facilities in Osaka, Kyoto, Nagoya, Sapporo and Tokyo. Two minutes walk from Iidabashi station on the JR (West Exit), Yurakucho or Tozai lines (Exit B 3) stands the building which houses Tokyo's British Council library. The library is open to anyone over the age of 18 who wishes to use the library collection for reading, consultation and information. On a typical visit to the library, an even mix of both Japanese and non Japanese users can be seen. The loan of books, video and other audio materials, however, is restricted to members only. Membership application forms are available at the library desk, which is staffed by helpful, bilingual Japanese librarians. Japanese nationals are requested to show one of the following documents as proof of their current address: student's ID card, health insurance card, driving licence or an ID card issued by an institution or company (A name card, a passport or mail are not acceptable). Non Japanese residents are requested to provide a permanent local address and show proof of residence e.g. their Alien Registration card.

Membership is valid for one year and includes The British Council events guide, sent to your home, informing you of a host of activities such as exhibitions, music, drama and dance, sometimes with free tickets enclosed. Members are also entitled to free entry into the British Council's Centre Programme events such as films, lectures etc. Only members have access to the British Library Document Supply Centre's photocopying services.

A maximum of eight books may be borrowed at any one time. Works of reference marked R, however, are not available on loan. Books are loaned initially for a period of 4 weeks and, if not reserved by another reader, may be renewed once for a further period of 4 weeks. Government papers, pamphlets and non-current periodicals except newspapers may also be borrowed by members for a period of two weeks. No more than 4 may be borrowed at any one time. Up to 4 video or audio tapes may be borrowed for a period of 2 weeks and 1 CD may be borrowed per week. Renewals may be made by telephone, by post or in person but only before the date the books are due back. A postal loan service is also available for which borrowers must pay the cost of postage or delivery service in each direction.

All of the libraries' resources are produced in Britain and are intended for English language, English literature and British studies. The British Council aims to promote and inform people from other countries of things British and so it organises and coordinates events such as courses and workshops for teachers of English and lectures such as the recent one given by Mr. Kenichi Nakane, Senior Researcher of Research and Legislative Reference Bureau at the National Diet Library to the Anglo-Japanese Librarians' Club about his experience in his visits to UK prison libraries. Every week a British made film is shown in the British Council Auditorium, in the basement of the library building. The events programme keeps members informed on all manner of events related to Britain, such as performances in and around Tokyo by visiting British theatre groups or art exhibitions by visiting artists. A bibliographical and general enquiry service is also offered by the library to anyone wishing to purchase British books, CD-ROMs, audio-visual materials and computer software.

The library lists its services in the following way:

- Reading
- In-house use of audio-visual materials
- Reference service
- Photocopy service

- Loan of books/periodicals/audio-visual materials (members only)
- British Library book loan and photocopy service (members only)
- Education counselling service

Books and audio-visual materials are arranged by subject according to the Dewey Decimal Classification scheme.

The ten main classes are:

000 General subjects	500 Pure sciences
100 Philosophy	600 Technology (Applied science)
200 Religion	700 The arts
300 Social sciences	800 Literature (Belles-lettres)
400 Language	900 History and geography

Library users wishing to look up details have a choice of two types of catalogue; a card catalogue or a microfiche catalogue.

The current library collection consists of;

- Total number of books	2,210,684
- Periodicals	100 titles
- Daily newspapers	5 titles
- Audio-visual materials	2,400 items
- British government publications	
- CD-ROMs	

New book lists are produced every two months. Furthermore, microcomputers in the library are networked to a system of English Language Teaching software.

Nowadays, the focus of the library is shifting away from a traditional style lending service to a targeted information service, actively providing information to key individuals. One instance of this new approach is the help offered by the library to anyone wishing to organise a book exhibition or lectures.

The Education Counselling Service was set up to provide those who wish to study in Britain with information and advice free of charge. As well as answering enquiries and counselling, the service provides self-access information and regularly organises education fairs and seminars. Presentations and interviews are also held, on site, by individual institutions, particularly British universities which run language programmes for foreign students.

Anyone wishing to join or learn more about the British Council Library should contact;

Address: The British Council Library
1-2 Kagurazaka, Shinjuku-ku,
Tokyo 162
Telephone: 03-3235-8031
Fax: 03-3235-8040
Opening hours: Mon-Fri 10a.m. - 8 p.m.
Membership fee: ¥4,000 (Individual).
Temporary membership,
valid for one event only,
costs ¥500.

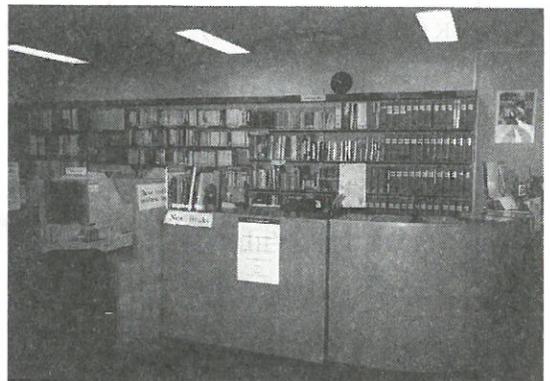
(文学部講師・ジャネット G まえかわ)

ブリティッシュ・カウンシル図書館

(編集委員会による簡単な要訳のみ。あとは原文をご覧ください)

ブリティッシュ・カウンシル図書館は、世界中一八五ヶ所に設置されています。貸出サービスの他、情報セミナー、ワークショップ、講演など幅広い情報サービスを行っており、イギリスやヨーロッパへもオンラインで接続できます。

利用は、十八歳以上の方。貸出は会員のみ。会員になると、一年間、催物の案内が送られてきます。また、英国図書館の複写サービスが受けられます。



蔵書は、イギリスで発行されたもので、英国研究、英語・英文学に関するものです。ブリテイッシュ・カウンシルの目的は、イギリスについて、外国の人々の理解を深めることにあります。イギリスの図書、CD-ROM、視聴覚資料、コンピュータ・ソフトなどを購入したい人に情報提供します。最近では、貸出というより、情報サービスに移行してきていて、図書の展示や講演を企画している人に有効なものとなっています。

イギリスに留学したい人のためには、教育カウンセリング・サービスがあります。質問への回答、セミナーの開催など。また、外国人向け語学コースを持つイギリスの大学が、プレゼンテーションやインタビューを個々に行っています。

ブリテイッシュ・カウンシル図書館
〒162 東京都新宿区神楽坂1の2
電話 03-3235-1803
Fax 03-3235-1804
開館時間 月曜～金曜
午前10時～午後8時
会員登録料 四千元 催物など一回五百円

図書館アラカルト

●春休み貸出について（雑誌は除く）

〈白山〉

1月31日(木)～4月12日(金)

(卒業・修了予定者は3月23日(土)まで)

〈朝霞〉

1月20日(土)～

返却期限 4月15日(月)

図書5冊・AV3点

〈工学部〉

2月1日(木)～

●開館時間延長について

〈朝霞〉

1月9日(火)～31日(木)

(月)～(金) 9時～19時15分

(土) 9時～16時45分

〈工学部〉

1月16日(火)～29日(月)

(月)～(金) 9時～19時

(土) 9時～17時

その他のお知らせについては図書館発行のパンフ・掲示等をご覧下さい。

KOΣMOΣ (No.112)
1996年1月24日発行
発行人：今井光太郎
発行所：東洋大学図書館
〒112 文京区白山5-28-20
TEL 03-3945-7327
© 東洋大学図書館 1996

